

嶺南地方の振興に資する道路協議会の 取り組みについて ～地域振興のために道路ができること～

植田 貴志¹・谷口 英幸²

¹近畿地方整備局 河川部 地域河川課 (〒540-8586 大阪府大阪市中央区大手前1-5-44)

²近畿地方整備局 福井河川国道事務所 計画課 (〒918-8015 福井県福井市花堂南2-14-7)

嶺南地方の振興に資する道路協議会とは、地域振興のために道路ができること、果たさなければならない役割について、議論や情報共有、意見交換などを県や市町の「道路」に関わる部署及び「観光」に関わる部署、高速道路会社などとともに、「道路」と「観光」の二つの視点から地域振興のための道路施策を考えていく協議会である。本研究では、協議会設立から、地域振興のために道路ができることを「道路」と「観光」の両側面から考え、実現を目指した本協議会の取り組みについて紹介する。

キーワード 地域活性化, 観光, 地域再生

1. はじめに

近年、日本では「観光立国化」を推進している。2015年の1年間に日本を訪れた外国人客数が過去最高の1973万人となり、政府が掲げていた「2020年までに訪日外国人客数年間2000万人」をほぼ達成できたことから2020年までのこの目標を年間3000万人に引き上げるというニュースは記憶に新しいだろう。外国人観光客を呼び込むことで日本経済の活性化、特に地方経済に恩恵をもたらそうとしている。しかし、いったいどれほどの人が地方を訪れるだろうか。観光庁から発表されている「訪日外国人消費動向調査」の国籍・地域(21区分)別 都道府県別訪問率(平成29年1月～3月期)を見てみると東京、大阪、京都といったメジャーな観光スポットが多い地域の訪問率が高いことがわかる(図-1)。成田空港や大型テ

ーマパークの存在により訪問率の高さが第3位となっている千葉県を除けばおおむね一般的な想像通りの結果になっている。日本人の国内旅行であっても訪問先に多く挙げられるのは東京、大阪、京都といったメジャーな都市であり、知名度の高さ、都市部故の交通アクセスの良さによるところが大きいと考えられる。では、本研究で紹介する福井県嶺南地方のような全国的な知名度があまり高くなく、交通アクセスも都市部ほど良くないような、いわゆる「地方」の観光はどうすればよいのだろうか。

近年、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道、中部縦貫自動車道の整備によって「地方」へのアクセスが向上している。それによって今まで訪れる機会がなかった地方の観光地も新たな旅行先の候補の一つとなった。しかし、高速道路やバイパス道路の誕生で今まで使われてきた「道」が使われなくなった時、その「道」に根付いた観光地、商業地を持つ「地方」の観光はどうなっていくのだろうか。

「観光」にとって「道」は非常に重要な要素の一つである。どんなに魅力的な観光地があったとしてもそこにたどり着くだけの「道」と観光地についての「情報」がなければ観光客が訪れることは難しい。しかし、「道」と「観光」はお互いに大きく影響を及ぼす重要な要素であるにも係わらず、それぞれの関係部署において縦割りされているケースが多く、二つの重要な要素を担当する部署同士の連携が十分上手くいっていると言えるところは少ないのではないだろうか。誰もが知っているようなメジャーな観光資源を持たない地方においては、「観光」の力だけでの地域振興は非常に困難であり、「観

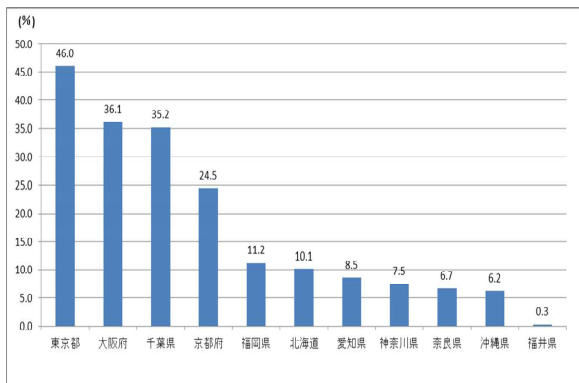


図-1 訪日外国人都道府県別訪問率 (2017年1月～3月期)

光」と「道」，もしくはその二つにプラスアルファした，多角的な視点から知恵と力を合わせるが必要不可欠である。

本研究は舞鶴若狭自動車道，美浜東バイパスの整備によって，今まで使われてきた道路のあり方に転機を迎えようとしている福井県嶺南地方の振興のために「道路」と「観光」の担当者が一堂に会し，地域振興のために道路ができること，道路の果たすべき役割について考える，「嶺南地方の振興に資する道路協議会」の取り組みについて紹介するものである。

2. 嶺南地方の振興に資する道路協議会について

「嶺南地方の振興に資する道路協議会」（以下，本協議会）が対象としている福井県嶺南地方とは福井県の敦賀市から南の小浜市や美浜町，高浜町などからなる地方のことである（図-2）。夏期には「日本一の楽園ビーチ」などとも呼ばれる水晶浜を中心とした日本海側の海水浴スポットで賑わいをみせる地域であり，2014年には舞鶴若狭自動車道の小浜ICから敦賀JCTが開通し，関西地方から北陸地方へアクセスが向上し，企業の進出や観光交流客の増加によって地域振興及び産業振興が期待されている。



図-2 福井県嶺南地方

一方で，「嶺南地方の地域としての連携」，「この地域をどうしていくのか」，「どのように活用していくのか」といったビジョンの不足及び舞鶴若狭自動車道の開通で福井市内や金沢市内への通過点となり，嶺南地方を訪れる人が減少することが懸念されている。それらに加

え，今まで使われてきた「道」に根付く地方の観光や商業をどうしていくべきか行政として，道路管理者としてこれらの懸念の解消及び嶺南地方の振興のためにできることはないだろうかという考えが本協議会設立のスタート地点になっている。

今年で2年目となる本協議会は2016年2月に設立され，嶺南地域の振興のために道路ができることや果たすべき役割について，議題や状況などを継続的に把握共有し，今後の道路施策に反映させることを目的としている。本協議会は国交省と高速道路の道路関係担当者及び県と市町の「観光」と「道路」，両方の担当者が同席し，地域振興を考える画期的な協議会となっている（図-3，図-4）。



図-3 嶺南地方の振興に資する道路協議会 (2017. 3. 22)

嶺南地方の振興に資する道路協議会 委員名簿

所属	役職	備考
国土交通省 近畿地方整備局	地域道路調整官	
	◎ 福井河川国道事務所長	
福井県	土木部 道路建設課長	
	土木部 道路保全課長	
	土木部 高規格道推進課長	
	観光営業部 観光振興課長	
	嶺南振興局 若狭観光・地域振興室長	
中日本高速道路(株) 金沢支社	総務企画部 企画調整チームリーダー	
西日本高速道路(株) 関西支社	総務企画部 企画調整課長	
敦賀市	建設水道部長	
	産業経済部長	
小浜市	産業部長	
美浜町	土木建設課長	
	商工観光課長	
高浜町	産業振興課長	
	建設整備課長	
おおい町	建設課長	
	商工観光振興課長	
若狭町	建設課長	
	観光交流課長	

◎ 会長

図-4 協議会構成員

3. 本協議会の取り組みについて

ここからは「道路」と「観光」両方の担当者が集うという点で画期的な本協議会の取り組みについて紹介する。

本協議会は基本的に構成員からの情報提供と意見交換を主な議事としている。嶺南地方の市町から持ち回りで開催地を決め、実際に嶺南地方に集まって協議会を開催している。第二回の協議会では開催地となった小浜市内にある道の駅などの観光スポットを実際に歩いて回るなど、現地視察する機会が設けられた。このようにそれぞれ特色のある嶺南地方の市町を実際に肌で感じながら本協議会が実施されている。

議題に挙がる話題は多種多様でそのどれもが嶺南地方の振興のために提供されるトピックスである。

国交省からは、平成27年12月に本省から通知のあった「交差点名標識改善方針(案)」の「観光立国や地方生の実現に向け、観光地等に隣接する又は観光地等へのアクセス道路の入口となる交差点に観光地等の名称を表示することにより、旅行者にとって観光地等へのわかりやすい案内となるよう、標識の改善を推進する」という趣旨に則り、小浜市で遊覧船がある「蘇洞門(そともめぐり)」の案内標識を、国・県・市の管理道路にピクトグラムや英語表記を統一して設置し、実際のアンケートでも約8割の方が「標識に気づいた」という結果を報告した。

また小浜市からは舞鶴若狭自動車道と道の駅「若狭おばま」を活用した社会実験の検証報告がある。小浜市では地域全体をサービスエリアとして高速道路利用者にサービス提供するSSA(スロー・サービス・エリア)というコンセプトを打ち出している。舞鶴若狭自動車道の西紀SA(兵庫県篠山市)から南条SA(福井県南条郡南越前町)もしくは賤ヶ岳SA(滋賀県長浜市)までの約150km以上において、ガソリンスタンドがない区間が続き、小浜市はその区間の中間点に位置しているため、小浜ICに直結した位置にある道の駅「若狭おばま」へ高速道路利用者を案内、そこを市内周遊の拠点とし、市内観光及びガソリンの補給、食事、休憩をしてもらうことで市内の周遊観光を促し地域活性化を目指すというものである。社会実験の内容としては高速道路に道の駅へ案内する看板、横断幕の設置、三方五湖PA・西紀SA・南条SA・養老SAでの仮設案内所設置により高速道路からの誘導効果などを検証している。道の駅で実施したアンケート結果によると小浜市への立ち寄りを予定していなかったが立ち寄ったという人が14%存在し、立ち寄るきっかけとなった情報として今回設置した高速道路や一般道路の案内看板が多く挙げられるなど案内看板による道の駅への誘導効果やIC付近にある道の駅などの休憩施設に対する需要があることが紹介された(図5,図6)。

社会実験の内容

1. 高速道路上に看板、横断幕の設置(設置期間:10/30~12/5)



2. 道の駅及び西紀・南条・養老SA等での仮設案内所設置、アンケートの実施



図-5 社会実験の内容

社会実験の効果検証(道の駅におけるアンケートより)

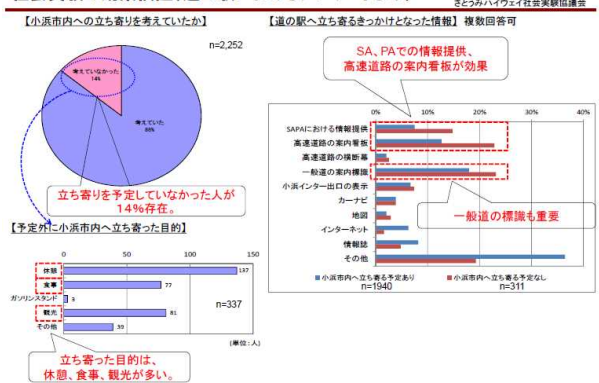


図-6 社会実験効果検証(協議会資料抜粋)

中日本高速道路(株)からは2017年の3月25日に開通した敦賀南スマートICの開通記念キャンペーンとして優待特典クーポンのついた敦賀市の観光スポットを紹介するパンフレット及びその内容の紹介をしていただくなど、高速道路会社からも地域振興に資するトピックスの提供をいただいている。都市部と地方をつなぐ高速道路もまた地方の観光にとって重要な要素のひとつである。

また、2017年3月15日から4月1日の約一ヶ月間、大阪府の曾根崎地下歩道にて、嶺南地方の各市町それぞれのPRブースの設置によるPR活動を行った。それぞれのブースには本協議会の概要や取り組みを紹介するポスター及び嶺南地方の各市町のPRポスター、観光施設や地域のグルメを紹介したパンフレットを無料配布用に設置し、嶺南地域の魅力を発信した(図7,図8,図9)。



図-7 曾根崎地下歩道でのPR活動



図-8 嶺南地方の各市町展示状況

嶺南地方の振興に資する道路協議会

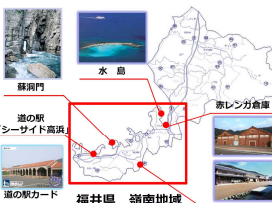
「観光」と「道路」～地域振興のために道路ができること～

嶺南地方の振興に資する道路協議会とは

福井県嶺南地方の振興のために道路ができることを考える協議会

○目的
嶺南地方の振興のために道路が果たすべき役割について、議題や状況を継続的に把握共有し、今後の道路施策に反映させることを目的とする。

○構成員
国道交通省近畿地方整備局道路部、福井河川国道事務所、中日本高速道路(株)金沢支社、西日本高速道路(株)関西支社、福井県、敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町



～これまでの取組～

○第1回協議会(平成28年2月19日)

国交省からのトピックス
交差点名標識改善方針(案)について
中日本高速道路(株)からのトピックス
新東名(豊田東)浜松引佐)の開通について
敦賀市からのトピックス
敦賀駅～港を結ぶ道路整備と観光の連携について
小浜市からのトピックス
標識改善のアンケートについて
社会実験について

その他、平成28年度に幹事会2回開催

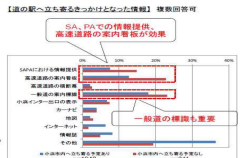


第2回 幹事会

～標識改善による観光促進～

○第1回協議会にて、小浜市の社会実験から「道路標識」が道の駅に立ち寄りやすくなった重要な情報であることが明らかになった。

【道の駅へ立ち寄りやすくなった理由】 社会実験前



「蘇洞門めぐり」の案内看板により観光促進

図-9 本協議会PRポスター

4. 本協議会と嶺南地方のこれからについて

これまでの本協議会の意見交換などでよく話題に挙がっていた話として標識の改善、道の駅、スマートICなどがある。舞鶴若狭自動車道から訪れる人々にどうやって市町内へ降りてきてもらうかということに関心が集まっ

ており、特に観光の拠点としての機能が道の駅に期待されていることが感じられる。高速道路から市町内へ誘導し、道の駅を拠点として、市町内を観光してもらうといった周遊観光のかたちを多くの市町が理想として思い描いている。それに対してこれから本協議会やっていくべきこと、道路が果たすことのできる役割について、一担当者としての考えを述べていきたい。

まず一つ挙げられることとして、観光資源へのアクセス性の向上がある。ここで言うアクセス性の向上とは単純に車道の整備だけでなく、歩道や自転車走行空間、駐車場、駐輪場の整備なども含めたアクセス性の向上である。ただ単純に今ある道で今ある観光地を線で結ぶようなものにするのではなく「周遊性」を考え、周遊観光拠点の設定及び物理的、時間的なアクセスのしやすさ、道中の景観など満足度向上のための十分な検討が必要である。周遊観光を考える上で「アクセス性の向上」はそのまま「周遊性の向上」に直結する大切な要素であり周遊観光の満足度に大きく左右する。近年はグループでのツーリングやサイクリングを楽しむ層が増えており、二輪車の走行区間確保や観光施設における駐輪スペースの確保によってアクセス性を向上させることでこれらの層にとって魅力のある観光地となる。また、アクセス性の向上は周遊範囲の向上、所用時間短縮による心理的な訪れやすさの向上につながる。周遊範囲の向上によって、周遊コースの選択肢が増え、多様なニーズを持つ観光客へアピール、満足度の向上が期待できる。よって、国道及び高速道路の担当者が集う本協議会において「観光」という視点を加えてアクセス性の向上に向け、活発な議論のできる場にしていくことが望まれる。

次に観光資源の創出がある。この創出についても新規の観光資源創出、既存の観光資源のさらなる魅力創出の二つの意味がある。新規の観光資源創出としては、ダムツーリズムとしてダムやその周辺地域を観光資源化するように市町内にある歴史ある道や橋梁など今あるものの魅力を再発掘することによって、新しい観光資源として生まれ変わることができる。観光資源になるような施設がなかったとしても、グリーンツーリズムのようにその地域にある自然や暮らし、文化そのものに魅力を見出すなど元来備えているであろう独自の魅力を再発見してみるという方法もある。近年人気が高まっているサイクリングやウォーキングのコースを設定し、上手くアピールしていくなど新たな観光資源になり得る材料は数多く眠っているのではないだろうか。今ある観光資源の魅力を磨いていくことも大切ではあるが地域の新たなよいところを作り出す、見つけ出していくこともまた地域全体の観光地としての魅力を向上させる手段の一つである。

既存の観光資源のさらなる魅力創出としてはその観光資源の魅力についてしっかりと把握することが重要である。なぜその観光資源が人気なのか、どのような人がどういったことを期待して観光に来てくれるのかを分析、

把握し、観光客の期待を上回るような体験を提供できるように努めなければならない。せっかく観光客を呼び込むことに成功しても期待を下回ってしまうとその観光客はもう二度とその観光資源を訪れることはなくなる。逆に期待を上回ることができると大切なリピーターのお客を獲得できるだけでなく、他の誰かに日常的な会話の中やSNSなどで口コミとして共有される可能性が非常に高い。つまり、観光の質を向上させ、高い満足度を得ることで観光客ひとりひとりが非常に効果的な情報発信源となり得る。

そして、最後に非常に重要な要素である情報の提供、PRの充実がある。本協議会において紹介された小浜市の社会実験の結果、案内標識による情報提供が市内への誘導に効果的であることが示されたように、情報提供の充実が地域の観光促進に大きく寄与する。魅力のある観光資源があってもその存在を知らなければ訪れることはなく、魅力ある観光資源とそれをアピールし、人々に認知してもらうことが観光促進に必要不可欠である。

本協議会を通じた、道路管理者と観光の担当者の連携、二つの視点を合わせることで情報発信についても様々なアイデアが生まれることが期待できる。道路管理者が管理する道路を、「観光」の視点をもって情報発信の場として役立てることを考えたことはあまりなかったのではないだろうか。本協議会の中でも大阪国道事務所が管理する曾根崎地下歩道におけるPRポスター展示を実施したり、交差点名標識に観光地名称を表示すること、道路に愛称をつけることを検討するなど、「道路」と「観光」の二つの視点から道路が観光や地域振興に資するためにできることを実行または議論してきた。これからも嶺南地方の魅力を発信するためのアイデアを絶えず出し、議論し、実行していくことが望まれる。

地域振興に資するため、嶺南地方及び本協議会でやっていくべきことを三つほど述べてきたが、嶺南地方の振興のため「道路」と「観光」の担当者が同じ場に集い、一緒に考えていく場が継続的に設けられているということが何よりも意義があることではないだろうか。まだ、設立から間もない本協議会ではあるが嶺南地方の振興に資することのできる、大きなポテンシャルを持っており、高齢化や人口減でだんだんと元気がなくなってくる地方の観光や振興を行政が積極的に知恵を出し合いと考えていくという場として、これからますます重要度が増す存在になるのではないかと考えている。本協議会を通じてそれぞれの担当者間の連携が生まれ、「道路」と「観光」という複数の視点を持つことができる。その時、一つの視点、立場からは見えなかった景色が二つの視点、立場からは見るようになるに違いない。

5. まとめ

今年で2年目となる本協議会の取り組みで嶺南地域の振興が目に見えて促進されたというような事実はまだないのが現状である。しかし、本協議会によって継続的に「道路」と「観光」の担当者が集まり、地域振興を一緒に考える場があるということは非常に意義深く、担当者間連携を深め、この両者の複合的な視点が嶺南地方をよりよい方向へと導くことに繋がるのではないだろうか。

また、本協議会に参加する高速道路会社とも連携を深めていくことができるというのは非常に重要なことである。舞鶴若狭自動車道の開通により今まで使われていた国道27号の交通量が減少していることが確認されており、本協議会においてもその情報は共有されている。国道27号沿いの観光地や飲食店などは少なからず影響を受けているだろう。しかし、これはいわゆる大型ショッピングセンターの影響で地元商店街が廃れていくような一方的な関係ではなく、地方がいかに通過点にならず高速道路から市や町内に降りてもらえるような魅力やリピーターをつくり、高速道路の存在がプラスに働くようにしなければ、元より観光による地域振興など不可能な話である。地方がそれぞれ持つ魅力を磨き、その情報を発信する、高速道路会社はその情報発信のお手伝いと地方までの近道（高速道路）を提供することで地方に観光客が集まり、高速道路の利用者も増加する。そのようなお互いがwin-winになる関係を築かなければならない。そのためにも本協議会の存在は非常に意義があるものである。

小浜市が実施した社会実験のように高速道路から道の駅への案内を出すなどの非常に簡単なことでも連携することによって市内へ訪れる人が増えるなどのプラスの効果が生まれることがわかっている。本協議会を通じて、多くの視点を手に入れ、互いに連携を深めていくことで地域振興のためにできることが、まだまだたくさん見えてくるのではないだろうか。本協議会を通じて培われる「道路」と「観光」の担当者間の連携や複合的な見方による嶺南地域振興のためのアイデアがこれからますます多様性を深める人々のニーズに柔軟に対応し、嶺南地方をにぎやかな地域にし得る最大の武器になるだろう。

※本研究の内容は著者の従前に所属していた福井河川国道事務所道路管理課における業務に基づくものである。

謝辞：本取り組み及び協議会にご協力いただいている関係者各位に厚く感謝の意を表します。